

## 「非核の会・京都」の役員の皆さんへ

役員会でも何度か議論になりました「新しい非核自治体宣言」の提唱の文章を起草しました。どうぞ忌憚なき御意見や御感想を事務局までお寄せ下されば幸甚に存じます。非核平和の理論めいたことや運動論など、平和活動家向きの議論をなるべく避け、福島原発事故の体験後における国民意識の変化や自治体関係者や地域住民の感性によりそった姿勢で起草したつもりですが・・・、いかがでしょうか。(望田幸男)

=====

## 私たちは「新しい非核自治体宣言」を提唱します

非核の政府を求める京都の会

### これまでの非核自治体宣言の意義

1980年代中頃から、核兵器の廃絶と非核三原則（核兵器をつくらず、もたず、もちこませず）の順守の二点を宣言文の柱として、各地の自治体の議会もしくは首長によって「非核自治体宣言」が行われてきました。

これは国際的な運動の一環としても取り組まれ、日本では今日までに90%に及び自治体が宣言をしております。それらの自治体では、この宣言と呼応して、毎年、小中高生徒の広島・長崎訪問や被爆者団体の活動への支援、各種の非核平和のイベントや広報活動が行われてきました。こうした自治体の具体的な取り組みは、原水爆禁止世界大会とも連動して、日本の非核平和運動を、世界に誇りうるものにしております。

### 2011年の福島原発事故にともなう国民意識の覚醒

2011年の東日本大震災にともなう福島原発事故から、私たち国民は多くのことを痛切の想いをこめて学びました。ひとたび原発に事故がおこれば、大量の放射性物質の拡散によって甚大な被害をもたらされることを思い知らされました。ふりかえれば原子力の平和利用の名のもとに、自然の力に対する謙虚さをなおざりにし、科学技術を過信し、生活の豊かさや便利さをひたすら追い求めるライフスタイルを生み出してきました。福島原発事故は、このような意識やライフスタイルに対する痛苦の反省を生み出すとともに、同時に「原発の安全神話」を推進してきた政府・電力資本への厳しい批判の声が広がりを見せました。

このことは、核兵器廃絶に取り組んできた非核平和の運動にも新たな問題を投げかけ、核兵器とともに原発に対峙することが迫られるようになりました。いくつかの自治体では、すでに先覚的な取り組みに着手しつつあります。そこでは、これまでの非核自治体宣言の枠組みを乗り越えて、「新しい非核自治体宣言」が発せられるようになりました。

### 「新しい非核自治体宣言」の胎動

その「新しい非核自治体宣言」は、核兵器の廃絶や非核三原則の遵守というこれまでの宣言内容を継承するとともに、脱原発を願い、自然や環境にやさしい再生エネルギーの推進など、新たなライフスタイルの追求を呼びかけています。すでに東京多摩市をはじめ、

埼玉県鶴ヶ島市、岐阜県本巣市、茨城県かすみがうら市などにおいて、こうした「新しい非核自治体宣言」が発せられております。これらの宣言を熟読しますと、非核平和の意思の表明とともに、それにとどまらないものを実感させられます。そこには現代の高度工業社会に生きる人間の心と文明・文化のあり方、つまり人と人との関係はいうまでもなく、人間と自然の新たな関係、産業や科学技術の新たなあり方までも考えていこうという思いがこめられています。以下に多摩市の新しい非核自治体宣言の一節を紹介します。

「私たちは人と人との絆を大切に、原子力に代わる、人と環境に優しいエネルギーを大事にしていきます。そして、戦争がなく、放射能被害のない平和な世界に向けて、みんなが笑顔で、多様ないのちがにぎわうまちを、多摩市から実現していきます。」

### 「新しい非核自治体宣言」の提唱

私たち「非核の政府を求めると京都の会」は、これまで30年におよんで、非核自治体宣言運動に取り組んでまいりましたが、ここに福島原発事故後の国民意識の覚醒に見合った、そして核兵器廃絶と脱原発をひとつに結び合わせた「新しい非核自治体宣言」を行うことを、全国一千数百の自治体の首長・議会、職員の皆さん、そして地域住民の皆さんに提唱致します。

以上

### <付記>

ご参考に東京都多摩市非核平和宣言（2011年10月24日）の全文を添付します。

#### 多摩市非核平和都市宣言

多摩市は、この緑豊かな土地に生まれ育ち、あるいは全国各地から夢と希望を持った、多くの人たちが集まってできたまちです。私たちは、太陽の光あふれるこの多摩市で、穏やかな日々の生活を平和だと感じて暮らしています。

この暮らしのなかで、いつしか広島・長崎の記憶が薄れつつあり、世界には今もたくさんの核兵器が存在すると知りながら、平和は失われやすいことを忘れかけていました。

平成23年3月の東日本大震災と福島第一原子力発電所事故に、私たちは多くのことを学びました。自然の力に対する謙虚さを忘れ、人間の科学技術を過信していたこと。安全と言われていた原子力発電所から、ひとたび事故が起これば大量の放射性物質が拡散され、大事に育て築いてきたものが、たちまち奪われうることを。

私たちは、人と人との絆を大切に、原子力に代わる、人と環境に優しいエネルギーを大事にしていきます。そして、戦争がなく、放射能被害のない平和な世界に向けて、みんなが笑顔で、多様ないのちがにぎわうまちを、多摩市から実現していきます。

現在、そして未来の子どもたちに戦争の悲劇と平和の大切さを伝え、他の都市とともに世界の人々と手をたずさえて、全ての核兵器の廃絶と平和な社会を求めるために、ここに多摩市が非核平和都市であることを宣言します。

平成23年10月24日